

| | |
|-------------------------------------|---|
| 科目名 | 看護科学特論Ⅳ Advanced Topics in Nursing Science Ⅳ |
| 授業形態 | 講義・演習 |
| 標準履修年次 | 1・2年次 |
| 実施学期・曜時限等 | 春AB学期 受講生との協議により定める |
| 単位数 | 2単位 |
| 担当教員名 | 安梅勅江 Tokie Anme 涌水理恵 Rie Wakimizu |
| ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA) | なし TA配置あり(2人) |
| オフィスアワー等 | 4B棟508 オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること。 anmet@md.stukuba.ac.jp |
| 授業の到達目標 (学習成果) | 国際発達ケア、エンパワメントについて学び、研究動向と実践活用について論述できるようになる。 |
| 他の授業科目との関連 | 国際看護学 国際発達ケア特論 |
| 履修条件 | なし |
| 授業概要 | 生涯を通して、個人、家族、地域社会、国際社会におけるケアシステムの開発、次代に向けた支援情報ネットワークを目指して、今後の看護科学発展に向け、独創的で創造的な研究課題に取り組むために必要な知識と研究技法について学ぶ。 |
| キーワード | 国際 生涯発達 ケア |
| 授業計画 | 1保健福祉活動の推進とコミュニティ・エンパワメント□ 2ライフサイクルにともなう課題□ 3ケアにおける家族支援□ 4環境支援とエビデンス□ 5文化背景と支援方法□ 6高度情報化時代における支援ネットワーク□ 7情報通信技術を活用した地域ケアシステム□ 8健康と生活環境整備に向けたケア□ 9生涯発達とケア□ 10国際機関との連携 |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業時に示す課題についてレポートを作成すること。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 復習は必ず行うこと。また、宿題を課す。 |

| | |
|-------------------------|---|
| 成績評価方法 | <p>レポート課題: 国際発達ケア研究のデザイン</p> <p>評価項目</p> <p>(1)問題の設定 A~A+: 背景がわかりやすく述べられ、問題設定が既存の研究レビューに基づいて明確にされている B: 背景の説明と問題設定が適切であり、既存研究のレビューがなされている C: 背景と設定が説明されている D: 背景、設定のいずれかが説明されていない</p> <p>(2)論旨の展開 A~A+: 論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる B: 論旨の展開が明確である C: 論旨は理解できるレベルにある D: 論旨が不明確である</p> <p>(3)結論の導き方 A~A+: 独創性が見られ、結論には説得力がある B: 明確な結論を導いている C: 論旨の展開と結論の間に矛盾はない D: 結論は唐突である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aのうち特に優れたものをA+とする ・それぞれC以上を満たすことで合格とする ・最低の評価(評点)を最終評点とする。たとえば、Aが2つ、Cが1つするとき、最終評価はCとする、など |
| 教材・参考文献・配布資料等 | いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学、安梅勅江、北王路書房、2016年 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 授業中の活発な参加を期待する。 |